



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月5日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 2019年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	22,387	22.0	3,518	63.6	3,548	64.5	2,268	70.8
2019年3月期第2四半期	18,347	6.6	2,151	16.3	2,157	15.4	1,327	△8.4

(注)包括利益 2020年3月期第2四半期 2,252百万円 (68.8%) 2019年3月期第2四半期 1,334百万円 (△8.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	72.89	—
2019年3月期第2四半期	42.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	26,424	19,302	73.0	620.27
2019年3月期	25,953	18,294	70.5	587.87

(参考)自己資本 2020年3月期第2四半期 19,302百万円 2019年3月期 18,294百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,200	10.9	6,970	16.6	7,000	16.4	4,550	14.5	146.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	31,121,520 株	2019年3月期	31,121,520 株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	1,863 株	2019年3月期	1,863 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	31,119,657 株	2019年3月期2Q	3,119,707 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、改元に伴う大型連休の活況など明るい話題が見られた一方、本年10月に実施された消費税率引き上げによる消費マインドの悪化懸念など、先行き不透明感の高まりから個人消費は力強さを欠く状況で推移いたしました。また、業種・業態を超えた競争の激化、物流コストの上昇、人材不足を背景とした人件費の上昇などもあり、総じて厳しい事業環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、『超 超絶 WSR!! (※1)』を2019年の経営スローガンに掲げ、主力ブランド及び主力商品の育成に向け、商品力、販売力・営業力、売場力のレベルアップによる現場力の向上に引き続き注力いたしました。また、顧客層の拡大に向け、新ブランド・新業態・新商品開発を推進いたしました。更に、当面の重点施策であります、「GTS (グレート・トランスフォーメーション・サクセス) (※2)」、「インバウンド対策の強化」、「海外展開 (海外における事業モデルの構築)」、「首都圏でのWSR化展開の推進」の4つのテーマに、スピード感を持って取り組みました。

製造面では、品質及び衛生管理の一層の強化を図ると共に、設備投資による増産体制の構築及び生産性の向上に対処いたしました。

以上の取り組みにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は22,387百万円 (前年同期比22.0%増)、営業利益は3,518百万円 (前年同期比63.6%増)、経常利益は3,548百万円 (前年同期比64.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,268百万円 (前年同期比70.8%増) となりました。

※1. WSR (ダブルエスアール) とは、グループ経営基本方針として平成27年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常 (超感動) を提供する」という意味が込められています。

※2. 「GTS」とは、『Great Transformation Success』=「大転換による成功」を意味し、スピードとエネルギーを象徴する言語として命名しております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、各ブランド認知度の向上を図るため、既存店の販売強化に注力するとともに、派生ブランド及び新業態による出店増加が寄与したことにより、直営店売上が伸びました。また、営業強化により国際線ターミナル売店及び駅売店での卸売上が好調に推移いたしました。なお、直営店の出退店数は、本年4月に「洋菓子のフランス」の新業態店「レモンショップ by FRANCAIS」を小田急新宿駅西口地下構内に、「キャラメルゴーストハウス」の新業態「キャラメルゴーストパーティー」をキラリナ京王吉祥寺にそれぞれ出店するなど、計5店の出店及び5店の退店を実施いたしました。新ブランドでは、本年7月、東京駅に新たに開業されたHANAGATAYA グランスタ東京中央通路店において新ブランド「ベリーアップ」商品を投入いたしました。その結果、売上高は7,829百万円 (前年同期比30.8%増)、営業利益は1,031百万円 (前年同期比30.2%増) となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、昨年9月に発生しました北海道胆振東部地震のマイナス影響の反動増に加え、営業強化により主要都市空港の国際線ターミナル免税売店での卸売上が堅調に推移いたしました。また、通信販売では、ロイヤルカスタマー対策や限定商品投入などの対策強化が寄与し、通販売上が伸びました。その結果、売上高は5,771百万円 (前年同期比14.6%増) となり、営業利益は589百万円 (前年同期比29.5%増) となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、前年同期に実施いたしましたグループ向け生産の一部を他のグループ製造拠点に移管したことによる減収要因が一巡し、グループ向け売上が増収基調に転じ、また、「サンドクッキー」などの新製品の営業強化及び販路拡大などにより代理店及び山陰地区での卸売上が好調に推移いたしました。その結果、売上高は5,778百万円 (前年同期比12.6%増)、営業利益は881百万円 (前年同期比56.2%増) となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、東海地区において、昨年11月に新店いたしました三重寿庵伊勢神宮内宮前おはらい町通り店の出店効果や改元祝賀ムードも追い風となり、主力商品「伊勢奉祝えびせんべい」が好調に推移いたしました。関西地区では、本年4月に新ブランド「ビスポッケ」神戸本店を立上げ、同年5月にあべのハルカス近鉄本店に出店し、更に、本年7月に「京都ヴェネト」京都駅前地下街ポルタ店を出店するなど、店舗展開を推進いたしました。その結果、売上高は3,330百万円（前年同期比17.9%増）、営業利益は350百万円（前年同期比65.9%増）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、テーマパーク向けOEM生産の中止、製造ライン新設によるグループ向け売上の増大など前連結会計年度に実施した取り組みが奏功し、収益性が大幅に改善いたしました。また、フレンチトースト専門店「アイボリッシュ」ブランドを中心に首都圏での催事強化に努めました。新規出店では、本年8月に「アイラブカスタードヌフヌフ」の2号店を福岡空港に出店いたしました。その結果、売上高は2,317百万円（前年同期比48.2%増）、営業利益は268百万円（前年同期は営業損失102百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾及び香港）における菓子事業が含まれており、売上高は460百万円（前年同期比322.6%増）となり、営業損失は60百万円（前年同期は営業損失101百万円）となりました。

なお、「その他」には、第1四半期累計期間より前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited（香港）が含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、26,424百万円となり、前連結会計年度末に比べ470百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の増加（682百万円）、流動資産におけるその他の増加（161百万円）、商品及び製品の増加（157百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（123百万円）、受取手形及び売掛金の減少（626百万円）、建設仮勘定の減少（128百万円）などの要因によるものです。

負債は7,121百万円となり、前連結会計年度末に比べ537百万円減少いたしました。主な要因は、未払金の減少（529百万円）、長期借入金の減少（121百万円）、賞与引当金の増加（106百万円）などの要因によるものです。

純資産は19,302百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,008百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（2,268百万円）、配当金の支払いによる減少（1,244百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.5ポイント増加の73.0%となり、1株当たり純資産は620円27銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）残高は、前連結会計年度末に比べ682百万円増加し、6,342百万円（前年同期比61.3%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3,062百万円（前年同期比75.3%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益3,455百万円、売上債権の増減額624百万円、減価償却費671百万円の計上などの増加要因があった一方、法人税等の支払額1,223百万円、その他の減少額577百万円、たな卸資産の増減額△188百万円などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、997百万円（前年同期比25.2%減）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出893百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,378百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

主な要因は配当金の支払額1,244百万円、長期借入金の返済額132百万円などの減少要因によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、上期は、期初予想を上回ったものの、事業環境は依然として不透明な状況が見込まれるため、通期予想は売上面・利益面ともに期初予想を据え置いております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,659,617	6,342,454
受取手形及び売掛金	4,897,052	4,270,189
商品及び製品	1,669,636	1,826,965
仕掛品	84,750	76,561
原材料及び貯蔵品	560,709	598,110
その他	331,526	493,116
貸倒引当金	△845	△683
流動資産合計	13,202,445	13,606,712
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,264,236	4,387,766
機械装置及び運搬具(純額)	2,559,283	2,627,378
工具、器具及び備品(純額)	455,669	448,319
土地	2,887,139	2,887,139
リース資産(純額)	2,640	1,618
建設仮勘定	222,010	93,591
有形固定資産合計	10,390,977	10,445,811
無形固定資産	158,089	149,834
投資その他の資産		
その他	2,208,878	2,228,934
貸倒引当金	△6,856	△6,856
投資その他の資産合計	2,202,022	2,222,078
固定資産合計	12,751,088	12,817,723
資産合計	25,953,533	26,424,435
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,336,926	1,379,174
1年内返済予定の長期借入金	252,729	241,396
未払金	1,373,043	843,355
未払法人税等	1,229,875	1,193,480
賞与引当金	795,680	902,446
ポイント引当金	10,832	13,102
その他	805,132	769,088
流動負債合計	5,804,217	5,342,041
固定負債		
長期借入金	180,017	58,819
退職給付に係る負債	1,473,259	1,528,652
その他	201,718	192,463
固定負債合計	1,854,994	1,779,934
負債合計	7,659,211	7,121,975

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	15,800,192	16,823,842
自己株式	△2,063	△2,063
株主資本合計	18,339,090	19,362,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,233	11,341
為替換算調整勘定	△27,188	△36,206
退職給付に係る調整累計額	△38,813	△35,415
その他の包括利益累計額合計	△44,768	△60,280
純資産合計	18,294,322	19,302,460
負債純資産合計	25,953,533	26,424,435

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	18,347,982	22,387,514
売上原価	7,931,939	9,127,273
売上総利益	10,416,043	13,260,241
販売費及び一般管理費	8,264,961	9,741,426
営業利益	2,151,082	3,518,815
営業外収益		
受取利息	474	57
受取配当金	3,455	3,489
受取地代家賃	9,355	10,325
その他	14,463	23,747
営業外収益合計	27,747	37,618
営業外費用		
支払利息	1,545	915
持分法による投資損失	10,072	—
その他	9,957	7,043
営業外費用合計	21,574	7,958
経常利益	2,157,255	3,548,475
特別利益		
固定資産売却益	659	116
特別利益合計	659	116
特別損失		
固定資産除却損	12,662	7,036
減損損失	—	85,667
災害による損失	37,543	—
特別損失合計	50,205	92,703
税金等調整前四半期純利益	2,107,709	3,455,888
法人税等	779,864	1,187,452
四半期純利益	1,327,845	2,268,436
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,327,845	2,268,436

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,327,845	2,268,436
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,127	△9,892
為替換算調整勘定	△392	△9,018
退職給付に係る調整額	1,396	3,398
持分法適用会社に対する持分相当額	419	—
その他の包括利益合計	6,550	△15,512
四半期包括利益	1,334,395	2,252,924
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,334,395	2,252,924

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,107,709	3,455,888
減価償却費	558,007	671,011
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△8,624	△147
賞与引当金の増減額 (△は減少)	87,058	106,766
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	57,924	55,393
受取利息及び受取配当金	△3,929	△3,546
支払利息	1,545	915
持分法による投資損益 (△は益)	10,072	—
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△3,179	2,270
固定資産売却損益 (△は益)	△659	△116
固定資産除却損	12,662	7,036
減損損失	—	85,667
災害損失	37,543	—
売上債権の増減額 (△は増加)	417,602	624,282
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△257,922	△188,936
仕入債務の増減額 (△は減少)	△83,920	45,156
その他	△390,522	△577,625
小計	2,541,367	4,284,014
利息及び配当金の受取額	3,929	3,546
利息の支払額	△1,472	△1,056
法人税等の支払額	△797,125	△1,223,847
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,746,699	3,062,657
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	—	△3,550
有形固定資産の取得による支出	△1,237,995	△893,250
有形固定資産の売却による収入	11,045	3,668
無形固定資産の取得による支出	△60,288	△14,922
敷金及び保証金の差入による支出	△20,312	△39,367
敷金及び保証金の回収による収入	25,040	29,131
その他	△51,866	△79,506
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,334,376	△997,796
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△140,198	△132,531
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,301	△1,022
自己株式の取得による支出	△108	—
配当金の支払額	△1,089,190	△1,244,786
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,230,797	△1,378,339
現金及び現金同等物に係る換算差額	599	△3,685
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△817,875	682,837
現金及び現金同等物の期首残高	4,748,855	5,659,617
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,930,980	6,342,454

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	5,940,007	4,772,917	3,487,927	2,816,080	1,222,094	18,239,025
セグメント間の内部売上高又は振替高	48,063	261,280	1,643,016	9,043	341,661	2,303,063
計	5,988,070	5,034,197	5,130,943	2,825,123	1,563,755	20,542,088
セグメント利益(△は損失)	792,056	454,986	564,284	211,172	△102,283	1,920,215

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	108,957	18,347,982	—	18,347,982
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	2,303,063	△2,303,063	—
計	108,957	20,651,045	△2,303,063	18,347,982
セグメント利益(△は損失)	△101,522	1,818,693	332,389	2,151,082

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額332,389千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額633,549千円、セグメント間取引消去額13,081千円、たな卸資産の調整額1,050千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△315,291千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	7,645,137	5,590,111	4,002,321	3,320,135	1,369,394	21,927,098
セグメント間の内部売上高又は振替高	184,667	181,307	1,775,787	9,865	948,298	3,099,924
計	7,829,804	5,771,418	5,778,108	3,330,000	2,317,692	25,027,022
セグメント利益(△は損失)	1,031,012	589,306	881,552	350,364	268,521	3,120,755

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	460,416	22,387,514	—	22,387,514
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,099,924	△3,099,924	—
計	460,416	25,487,438	△3,099,924	22,387,514
セグメント利益(△は損失)	△60,163	3,060,592	458,223	3,518,815

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

なお、第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited(香港)が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額458,223千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額763,047千円、セグメント間取引消去額14,094千円、たな卸資産の調整額29,052千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△347,970千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」及び「ケイシイシイ」の資産グループについて減損損失を計上いたしております。

なお、当該減損損失の当第2四半期連結累計期間における計上額は「シュクレイ」38,770千円及び「ケイシイシイ」46,897千円であります。